お浄土の響き

雅楽と本願寺

本願寺派総合研究所　福本　康之

本山本願寺で5月20、21日、親鸞聖人のご誕生をお祝いする法要「宗祖降誕会」が営まれ、21日には全国の雅楽演奏者が集まり、御影堂で「雅楽献納会」が行われます。近年では、流行歌を雅楽で演奏するCDが販売されるなど、静かなブームとなっている雅楽。そこで、雅楽と仏教、そして本願寺との関係について、本願寺派総合研究所（仏教音楽・儀礼研究室）の福本康之上級研究員に降誕会雅楽献納会に寄せて「お浄土の響き―雅楽と本願寺」と題して執筆してもらいました。

（3面に宗祖降誕会の法要行事日程）

本願寺の法要で、路楽を奏でながら進む縁儀の列。雅楽は法要の厳かな雰囲気を作り上げている

雅楽は古来から重要な仏教文化
法要の厳かな雰囲気作り上げる

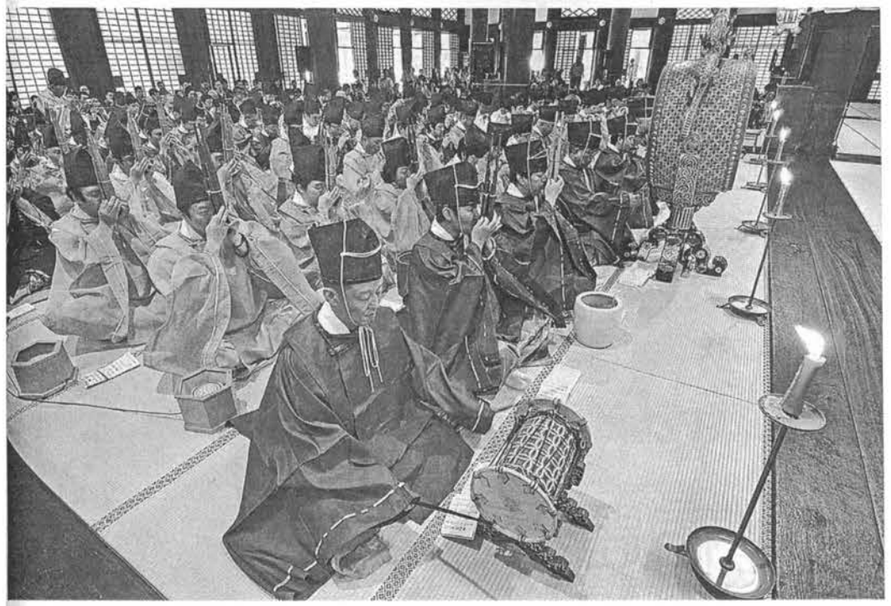
日本の雅楽

日本における雅楽の源泉は、5世紀頃に伝わった、大陸系の唐楽をはじめ、朝鮮半島系の高麗楽、東南アジア系の林邑楽などにあるとされています。

雅楽に関する制度としては、大宝元（701）年の大宝律令に基づいた雅楽寮の創設が、日本の雅楽の始まりといえるでしょう。当初は、伝来した楽曲を中心とした日本の雅楽ですが、9世紀頃には日本人の好みに合った曲が作られるなど、次第に独自文化としての道を歩むことになりました。

仏教との関係でいえば、天平勝宝4（752）年に行われた東大寺の大仏開眼供養会での演奏や、今日まで続く四天王寺聖霊会の舞楽（舞を伴った雅楽で重要無形民俗文化財に指定）などが有名です。

このように雅楽は、古来より大規模な法会で演奏されるなど、仏教における大切な文化とされてきました。一般には、皇室や神道の儀式や行事で演奏されるイメージの強い雅楽ですが、実は重要な仏教文化としての歴史があります。



降誕会の雅楽献納会には毎年、各地からたくさんの雅楽演奏者が集まり、厳かな雰囲気の中で演奏を披露する（写真は昨年の様子）

本願寺と雅楽

仏教とも関わりの深い雅楽ですが、本願寺のように、法要の作法の中に雅楽の音色が聴かれる例は、それほど多くはありません。

歴史的には、『法流故実条々秘録』を繙くと、「御堂御法事に楽初り候ハ、准如上人御代寛永三年丙寅春」と記されており、本願寺の法要で雅楽が依用されはじめたのは、第12代准如上人時代（江戸初期）であることがわかります（寛永2年を最初とする記録も存在する）。

以来今日まで、本願寺の法要は、雅楽抜きでは語ることのできないものとなっています。こうした背景には、第13代良如上人が龍笛と箏を、第17代法如上人と第18代文如上人が龍笛を、そして第21代明如上人が箏を、それぞれ学ばれているように、歴代宗主が雅楽に親しまれていたことも大きく関係しているでしょう。

今日の本願寺では、報恩講などの各種法要において、結衆の入堂時や登礼盤などの作法の折に、雅楽の古典曲（陪臚や越殿楽など）が演奏されます。

また、声明をおつとめする際にも、付楽（伴奏のようなもの）が演奏されるなど、雅楽の音色が法要の厳かな雰囲気を作り上げています。

雅楽の楽器

雅楽で用いられる楽器は、管楽器・絃楽器・打楽器の3つに分類されます。ここでは、本願寺の法要で用いられる3つの管楽器と3つの打楽器について、ご紹介しましょう。

3つの管楽器
龍笛・篳篥・笙

龍笛は、竹製の横笛で名前の由来は、その音色が龍の鳴き声をイメージしていることにあります。合奏時には、一番はじめに音を出すことが多く、篳篥の奏でる主旋律（メロディー）をより豊かに彩る役割を担っています。

篳篥も、龍笛と同じく竹製の笛ですが、こちらは少し短め（6寸・約18㌢）の縦笛です。その音色は、人の声を模したものといわれており、合奏時には、主旋律を担当します。

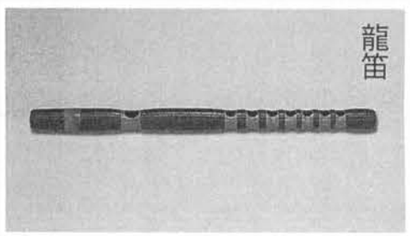
笙は、17本の細い竹を縦に丸く並べた楽器で、その形が伝説の鳥・鳳凰の翼を立てた姿に似ていることから、鳳笙とも呼ばれています。複数の音を同時に奏でられるようになっており、合奏時には主に和音（ハーモニー）を担当します。

3つの打楽器
鞨鼓・太鼓・鉦鼓

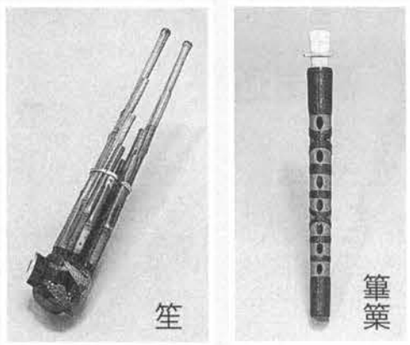
鞨鼓は、比較的小型で高い音を発する鼓です。この楽器を奏する者は、演奏の合図を出すなど、指揮者の役割を担っています。

太鼓は、比較的大型で低い音を発する鼓です。打面である皮の部分には、一般に鮮やかな彩色が施されており、鞨鼓が打面を左右とするのに対し、太鼓は、打面が奏者の正面にきます。

鉦鼓は、名前に「鼓」の文字が見られますが、金属製の打楽器です。鞨鼓や太鼓とは異なった、金属独特の音色を奏でます。



3つの管楽器
龍笛



笙　篳篥

3つの打楽器
鞨鼓

鉦鼓

太鼓

雅楽の聴きどころ

雅楽は、日本の伝統音楽のなかでも、数少ない、そして最も歴史が長い、器楽合奏の形態をとる音楽です。

西洋音楽でいえば、オーケストラということになるでしょうが、一番の大きな違いは、指揮者がいないことでしょう。演奏者同士が息を合わせながら音楽をつくる、その合奏の妙技こそが、雅楽の聴きどころでしょう。

雅楽って楽しいね！

法泉寺子ども雅楽団「雅組」

佐賀県有田町・法泉寺（桃谷法信住職）の土曜学校に通う児童から中学生までの子どもたちでつくる雅楽団「雅組」。全国でも珍しい子ども雅楽団で、各地の行事や報恩講、佐賀教区の「ほとけの子の集い」などに引っぱりだこです。

雅組は、2002年に本格的な活動をスタート。「越殿楽」や「祇園楽」、季節感のある童謡、恩徳讃などを演奏します。きらびやかな衣装を身に着け、雅楽を楽しんでいます。